

ミニ図鑑

# 海辺の植物





シバナ  
シバナ科  
*Triglochin asiatica*

塩生植物。多年草。河口や内湾の泥地に生える。葉は基部に集まってつき、肉厚。花茎は多数の花をつけ、穂状となる。花期は5～10月。名前は「塩場菜」で、若葉は食用になる。県A。



ドロイ  
イグサ科  
*Juncus gracillimus*

塩生植物。多年草。海辺の湿地に生える。白く見えるのは雌しべの柱頭。暗紫色に見えるのは花被片で、卵形で鈍頭。本種に似たクサイの花被片は披針形で銳頭。花期は5～7月。県B。



コウボウムギ  
カヤツリグサ科  
*Carex kobomugi*

海浜植物。多年草。砂地に生える。雌雄異株（まれに同株）で、写真は雌株。花期は4～7月。名前は弘法大師の筆に由来し、古い葉鞘の繊維を筆に使ったことから。別名フデクサ。



ハマアオスゲ  
カヤツリグサ科  
*Carex fibrillosa*

海浜植物。多年草。砂地のほか、クロマツ林でよく見る。花期は4～5月。果胞（雌花を包む壺状の器官）に太い脈があり、毛が密生していること、匍匐枝を伸ばすことなどが特徴。



### コウボウシバ

カヤツリグサ科

*Carex pumila*

海浜植物。多年草。砂地や砂礫地に生える。葉はコウボウムギより幅狭く、濃い緑色。花期は4～7月。上2～3個の小穂が雄性、下の小穂が雌性で、かたまってつく。



### シオクグ

カヤツリグサ科

*Carex scabrifolia*

塩生植物。多年草。河口や干潟の砂泥地に生える。コウボウシバと似ているが、草丈はより高く、雌性の小穂は離れてつく。花期は4～5月。クグはカヤツリグサの古名。



### ビロードテンツキ

カヤツリグサ科

*Fimbristylis sericea*

海浜植物。多年草。砂地に生える。海岸線から少し離れた表層の安定した場所で見られることが多い。名前は葉などにビロード状の絹毛があることから。花期は7～10月。県A。



### イソヤマテンツキ

カヤツリグサ科

*Fimbristylis sieboldii* var. *sieboldii*

塩生植物。多年草。岩場にも生える。花序に複数の小穂がつく。似たヤマイは小穂が1個。名前は「磯山天突」で、海岸に生え、天に向かって穂を伸ばす姿から。花期は7～10月。県C。



ケカモノハシ

イネ科

*Ischaemum antephoroides*

海浜植物。多年草。砂地に生える。水辺に生えるカモノハシと似るが、全体太く、毛が多い。名前は「鴨の嘴」で、向き合う2本の果軸をカモノの嘴に見立てたことから。花期は6~9月。



テンキグサ

イネ科

*Leymus mollis*

海浜植物。多年草。砂地に生える。名前はアイヌの人々が本種の葉で編んで作ったテンキと呼ばれる小物入れに由来するという。別名ハマニンニク。花期は6~7月。県C。



オニシバ

イネ科

*Zoysia macrostachya*

海浜植物。多年草。砂地に生える。花穂はシバより太く、一部が葉鞘に包まれる。葉は硬く、先が尖っており、さわると痛い。名前の「鬼芝」は、その粗い姿から。花期は6~8月。県C。



ナガミノオニシバ

イネ科

*Zoysia sinica var. nipponica*

塩生植物。多年草。河口の砂礫地などに生える。花穂は葉鞘から抜ける。名前は小穂が長いことから。根茎を長く伸ばし、マット状の群落をつくる。花期は5~6月。県C。



アイアシ

イネ科

*Phacelurus latifolius*

塩生植物。多年草。河口や内湾の岸のやや高い場所に生える。大型で高さ 1m ほどになる。根茎を伸ばして群生し、放射状に広がった棒状の花軸をつける。花期は 6 ~ 8 月。



ハマエノコロ

イネ科

*Setaria viridis* var. *pachystachys*

海浜植物。一年草。砂地や砂礫地のほか、岩場にも生える。稈は直立せず、斜上することが多い。路傍に生えるエノコログサと比べ、草丈は低く、穂は短い。花期は 7 ~ 9 月。



タイトゴメ

ベンケイソウ科

*Sedum japonicum* subsp. *oryzifolium*

海岸崖地植物。多年草。クロマツ林の林縁などにも生える。肉厚で、米粒のような葉が特徴的。園芸植物として人気のある多肉植物のセダムと同属の植物。花期は 5 ~ 7 月。県 C。



ハマナタマメ

マメ科

*Canavalia lineata*

海浜植物。つる性の多年草。葉は3出複葉で厚く、果実は長楕円形で太い。名前はこの果実を熱帯アジア原産のナタマメ（鉢豆）にたとえたもの。花期は 6 ~ 8 月。県 B。



ハマエンドウ

マメ科

*Lathyrus japonicus*

海浜植物。多年草。砂浜、礫浜に多い。葉は緑白色でやや厚みがあり、先端が巻きひげとなっている。果実はエンドウマメに似ており、熟すと黒褐色になる。花期は4～7月。



ハマナス

バラ科

*Rosa rugosa*

海浜植物。高さ1～2mになる落葉低木で、砂地に生える。幹にはトゲが密生する。花期は5～8月。熟した果実は甘酸っぱく、食用にされる。別名ハマナシ（浜梨）。県A。



イワタイゲキ

トウダイグサ科

*Euphorbia jolkinii*

海岸崖地植物。多年草。岩石地に生え、地下茎を岩の割れ目に深く伸ばす。花期は3～5月。黄色で目立つのは花序の下につく苞葉。名前は生薬のタイゲキ（大戟）に由来する。県B。



アナマスミレ

スミレ科

*Viola mandshurica var. crassa*

海浜植物。多年草。砂地のほか、岩場でみられることがある。草地や路傍に生えるスミレに似ているが、葉が厚く光沢があり、内側に巻き込むのが特徴。花期は4～6月。



### イソスミレ

スミレ科

*Viola grayi*

海浜植物。多年草。砂地に生える。地上茎を多く伸ばし、大きな株をつくる。葉は厚く、地下茎は木化する。別名セナミスミレ（新潟県の瀬波海岸に由来）。花期は4～5月。県A。



### ハマボウ

アオイ科

*Hibiscus hamabo*

塩生植物。高さ1～3mになる落葉低木で、河口や内湾の岸に生える。庭木で使われるムクゲやフヨウと同じフヨウ属の植物で、色鮮やかな一日花をつける。花期は7～8月。県A。



### ハマハタザオ

アブラナ科

*Arabis stelleri* var. *japonica*

海浜植物。多年草。砂地のほか、岩場でみられることがある。葉は肉厚で、両面に星状毛がある。名前は直立する地上茎を「旗竿」にたとえたもの。花期は3～5月。



### ハマダイコン

アブラナ科

*Raphanus sativus* f. *raphanistroides*

海浜植物。多年草。砂地のほか、海岸線から少し離れた草叢などでもよくみられる。栽培するダイコンのように根は太くならないが、若い苗や根は食用になるという。花期は3～6月。



ハマサジ  
イソマツ科  
*Limonium tetragonum*

塩生植物。多年草。河口の砂礫地に生える。開花結実後に枯死する一回繁殖型の植物。葉は根生し、ロゼット状になる。名前は「浜匙」で葉の形にちなむ。花期は8～11月。県C。



ホソバハマアカザ

ヒユ科

*Atriplex patens*

塩生植物。一年草。河口や内湾の砂地に生える。全体緑白色をしており、茎に赤褐色の縦じまがある。葉は肉質で細長く、若い時は鱗片状の毛がつく。花期は8～10月。県C。



ハママツナ

ヒユ科

*Suaeda maritima* subsp. *asiatica*

塩生植物。一年草。河口や内湾の砂地に生える。茎は多く枝を分け、葉は多肉質。秋に全体が赤くなる。花期は9～10月。黒く硬い硬実種子と半透明でやわらかい軟実種子をつくる。県B。



ヒロハママツナ

ヒユ科

*Suaeda malacosperma*

塩生植物。一年草。河口や内湾の砂泥地に生える。葉はハママツナより幅広く、断面はへん平。硬実種子より軟実種子を多くつくる傾向がある。花期は9～10月。県A。



マツナ

ヒユ科

*Suaeda glauca*

海浜植物。一年草。高潮線付近の砂地でみられることが多い。茎は直立し、多くの枝を分ける。葉はやわらかく、細長い。若葉は食用となり、栽培もされる。花期は7～10月。県A。



オカヒジキ

ヒュ科

*Salsola komarovii*

海浜植物。一年草。高潮線付近でよくみられる。茎は多く枝分かれし、葉は肉質で先がとがる。若い茎や葉は食用とされ、名前はこれが海藻のヒジキに似ることから。花期は7～10月。



イソホウキギ

ヒュ科

*Bassia scoparia*

海浜植物。一年草。高潮線付近の砂地に生える。茎は多く枝を分け、葉はやや厚く、両面に毛がある。秋に紅葉する鑑賞用のハナホウキギと同属の植物。花期は8～10月。県絶滅。



ツルナ

ハマミズナ科

*Tetragonia tetragonoides*

海浜植物。多年草。漂着物の打ちあがる場所でよくみられる。葉は肉質で厚く、表面に粒状の突起がある。名前は茎がややつる状に伸び、葉が食べられることから。花期は4～11月。



ハマボッス

サクラソウ科

*Lysimachia mauritiana* var. *mauritiana*

海岸崖地植物。多年草。砂礫地やクロマツ林の林縁などでもみられる。花期は5～6月。開花結実後に枯死する一回繁殖型の植物。名前は花序を仏具の払子（ほっす）にたとえたもの。



イヨカズラ  
キヨウチクトウ科  
*Vincetoxicum japonicum*

海岸草原・林縁生植物。多年草。草地や疎林、林縁などでみられる。半つる性で、他の植物にからみつきながら伸びていることが多い。草丈の低い個体は直立する。花期は5～7月。



ハマヒルガオ  
ヒルガオ科  
*Calystegia soldanella*

海浜植物。多年草。砂地や砂礫地に生える。茎は地上をはい、地中にも長く伸びる。葉は円腎形でやや厚く、光沢がある。海浜で最も普通にみられる海岸植物の一つ。花期は5～7月。



スナビキソウ  
ムラサキ科  
*Linaria japonica*

海浜植物。多年草。砂地や砂礫地に生える。地下茎を長く伸ばし、群生する。地上茎や葉には毛が多い。花期は5～8月。果実はコルク質で海水によく浮く。県C。



ウンラン  
オオバコ科  
*Linaria japonica*

海浜植物。多年草。砂地に生える。茎ははい、斜めに立ち上がる。葉は緑白色で肉質。名前は海辺に生えランのような花をつける「海蘭」から転じたとされる。花期は7～10月。県A。



ハマゴウ

シソ科

*Vitex rotundifolia*

海浜植物。高さ 40 ~ 60 cm になる落葉小低木。茎は地表、地中を長く伸び、大きな群落をつくる。葉は丸みをおび、裏面に軟毛が密生する。植物体全体に香氣がある。花期は 7 ~ 9 月。



ナミキソウ

シソ科

*Scutellaria strigillosa*

海浜植物。多年草。砂地や草地でみられる。茎は直立し、上向きの短毛がある。葉は橢円形で鈍い鋸歯がある。名前は「波来草」で海岸に生えることから。花期は 6 ~ 9 月。県 B。

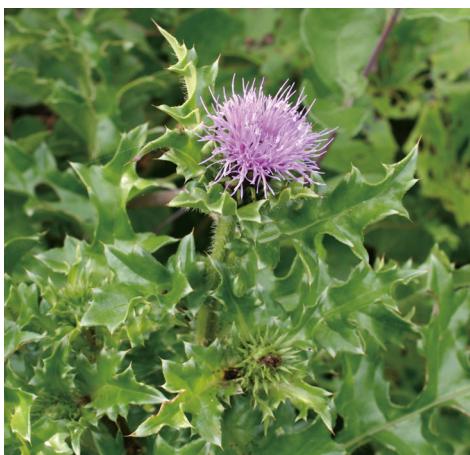


ハマウツボ

ハマウツボ科

*Orobanche coerulescens*

海浜植物。寄生性の一年草。ヨモギ属（特にカワラヨモギ）に寄生する。名前は海岸に生え、花がウツボグサ（シソ科）に似ることから。河原の砂地にも生える。花期は 5 ~ 7 月。県 A。



ハマアザミ

キク科

*Cirsium maritimum*

海浜植物。多年草。崖地にも生える。葉は厚く光沢があり、羽状に深く裂ける。縁に鋭いとげがあり、さわると痛い。別名ハマゴボウ。根は食用となる。花期は 6 ~ 12 月。県 A。



アゼトウナ

キク科

*Crepidiastrum keiskeanum*

海岸崖地植物。多年草。葉は茎の先に密につき、へら型で、縁に鋸歯がある。その株元から出た側枝がはいながら立ち上がり、花序をつける。花期は8～12月。県C。



ハマニガナ

キク科

*Ixeris repens*

海浜植物。多年草。砂地に生え、地下茎を長く伸ばして広がる。葉は黄緑色でやや厚く、掌状または鳥足状に3～5裂し、形の変化が多い。花期は4～10月。県C。



ハマベノギク

キク科

*Aster arenarius*

海浜植物。多年草。砂地のほか、岩場にも生える。茎は基部から枝分かれし、放射状にはい、先が立ち上がる。花はふつう淡紫色であるが、白色もまれにみられる。花期は8～11月。県C。



ウラギク

キク科

*Tripolium pannonicum*

塩生植物。多年草。河口や内湾の泥地、砂礫地に生える。茎は直立し、大きいもので高さ1mほどになる。開花結実後に枯死する一回繁殖型の植物。花期は10～11月。県A。



フクド  
キク科  
*Artemisia fukudo*

塩生植物。多年草。河口や内湾の砂礫地に生える。開花結実後に枯死する一回繁殖型の植物。全体に芳香があり、メロンの香りにたとえられる。別名ハマヨモギ。花期は9～10月。県B。



ノジギク  
キク科  
*Chrysanthemum japonense* var. *japonense*

海岸崖地植物。多年草。瀬戸内海沿岸と太平洋側（四国・九州）に分布し、兵庫県は東限に位置する。他のキク属の植物とよく雑種をつくるため区別が難しい。花期は10～12月。県C。



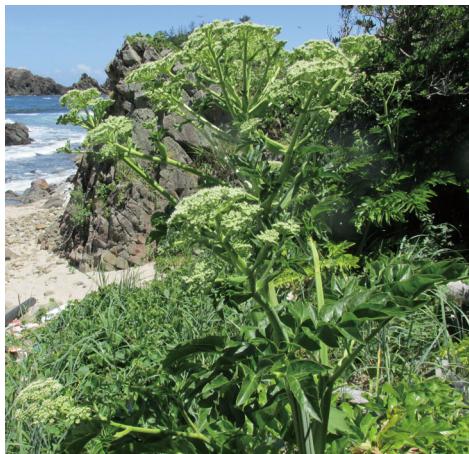
ワカサハマギク  
キク科  
*Chrysanthemum wakasaense*

海岸崖地植物。多年草。日本海側（福井県～鳥取県）でみられ、ノジギクとは分布が異なる。国の準絶滅危惧種であるが、但馬地方の海岸ではよくみかける。花期は10～11月。



ネコノシタ  
キク科  
*Melanthera prostrata*

海浜植物。多年草。砂地に生える。茎は枝分かれして地上をはい、節から根をおろして広がる。名前は葉に剛毛が生え、猫の舌のようにざらつくことから。花期は7～10月。県B。

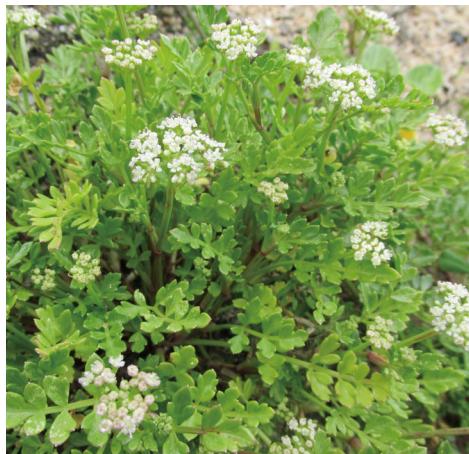


ハマウド

セリ科

*Angelica japonica* var. *japonica*

海岸草原・林縁生植物。大型の多年草で、高さは1~1.5mになる。茎は太く、赤い筋がある。ハマウドに似て食用にされるアシタバには赤い筋はない。花期は4~7月。



ハマゼリ

セリ科

*Cnidium japonicum*

海浜植物。多年草。砂地や砂礫地のほか、岩の隙間などにも生える。茎は枝分かれしながらはい、斜めに立ち上がる。葉は厚く、光沢がある。食用にはならない。花期は8~10月。

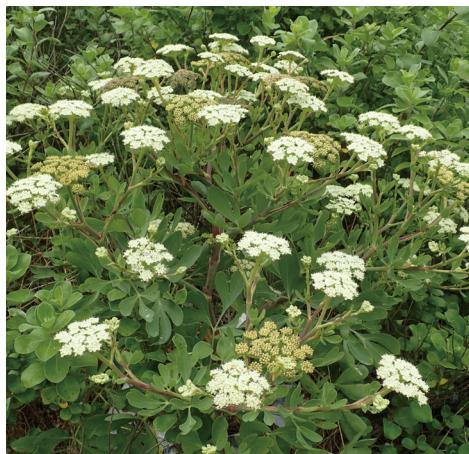


ハマボウフウ

セリ科

*Glehnia littoralis*

海浜植物。多年草。砂地に生える。葉は厚く光沢があり、根はゴボウ状。栽培され、若葉は刺身のつまなどに、根は漢方のボウフウ「防風」の代用で風邪の薬とする。花期は6~7月。



ボタンボウフウ

セリ科

*Peucedanum japonicum*

海岸崖地植物。多年草。砂礫地にも生える。茎は固く、大きなもので高さ1mほどになる。葉は枝分かれし、先が2~3裂する。名前は「牡丹防風」で葉の形から。花期は7~9月。県B。



**【概要】**海辺には、砂浜や砂丘、海崖、塩性湿地といった海岸域ならではの環境に適応した植物が生育しています。そのような海岸植物のうち、本冊子では兵庫県でみられるものを中心に、計 56 種をとりあげ紹介しています。科の並び順と学名は「改訂新版 日本の野生植物」に従っています。

**【解説文】**海岸植物それぞれの主な生育環境にもとづき、海浜植物、塩生植物、海岸崖地植物、海岸草原・林縁生植物に区分しています。「兵庫県版レッドデータブック 2020」に掲載されている絶滅危惧種については、そのランクを示しています（例：県 A は A ランク）。

**【観察ポイント】**花期の写真を載せています。植物の姿は季節や成長の段階により様々です。葉や茎、果実や種子、全体の形、あれば芽生えなども観察してみましょう。さわってみるのもよいと思います。海辺の環境で植物がどのように巧みに生活しているのか探ってみましょう。